

高齢者に多い骨折

4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えた現在、スポーツイベントなどに参加すると、元気ないきいきと過ごされているシニア世代の皆さんが多いことに改めて驚かされます。

その一方で、厚生労働省の国民生活基礎調査の結果を見ると、高齢者が支援や介護が必要となる原因の第1位は認知症(18.0%)、第2位は脳血管疾患(脳卒中)(16.6%)が占めていますが、第4位の転倒・骨折(12.1%)と第5位の関節疾患(10.2%)を合わせるとそれらを上回り、筋肉や骨など整形外科の領域の疾患が、高齢者の生活の質に大きく関わることが分かります。

日頃どんなに元気で、また気を付けている方でも、筋力の低下や関節痛、運動障害などがあれば、何かの拍子に転倒する危険があり、骨折をしてしまうこともあります。

転倒した際の骨折で多いのは、足の付け根(大腿骨近位部骨折)や前腕(橈骨遠位端骨折)などです。

足の付け根など下肢の骨折の場合には歩行ができないなり、車いすや寝たきりの生活を強いられることになります。また、前腕など上肢の骨折の場合は、手が不自由になり、食事や排泄、入浴や着替え

えのもと いくこ
整形外科医師 榎本 郁子

などを自力できなくなることもあります。

特に高齢者の場合には、短期間安静にしているだけでも、筋力の低下や全身の衰弱が進行し、誤嚥性の肺炎や尿路感染症といった全身疾患を併発する場合もあります。

そのため、運悪く骨折してしまった場合には、早期に適切な治療・手術を行い、リハビリを開始できるかどうかで予後が大きく左右されます。

市民病院では、骨折した患者さんに早期に手術を行う体制を整えていますが、高齢者の方の場合には、既往症のある場合も少なくないので、必要に応じて他科の医師とも相談しながら、患者さんにとって最適なタイミングと治療法を判断します。また、手術後もリハビリ担当と緊密に連携を取り合い、回復具合を把握しながら、その後の治療方針を検討していきます。

ロコモティブシンドromeという考え方が浸透するにつれて、高齢者の生活の質を維持する上で、転倒や骨折を予防することが極めて重要であることが広く認知されるようになりました。

万一骨折をしてしまった場合、日常生活への復帰のお手伝いができたなら幸いです。ぜひお気軽にご相談ください。